

1 郡山市の現状と課題

福島県において、本市は最も在住外国人が多く在籍する地域ではあるが、日本語学習支援者の高齢化及び新規参入者が少ないことで、地域における日本語学習支援の担い手が減少しており、ボランティア団体自体も縮小傾向にある。

全国的な傾向を見ても分かるように、今後在住外国人はますます増加する可能性が高く、地域として在住外国人に対して安定的に、そして中・長期的に日本語学習支援ができる環境を整えること、また新規・若手日本語学習支援者が長期的に参画できる体制をつくり、日本語学習支援者の安定的な人材確保ができるようなネットワークを構築することが課題であると考えます。

2 実践・活動内容

上記課題を解決するために、2024年8月～2025年2月にかけて実践したことは大まかに3つに分けられる。

① 郡山市役所内に設置されている「国際交流サロン」の周知活動

→在住外国人、日本語学習支援者が集まるプラットフォームとして活用することで、行政と在住外国人、日本語学習支援者とを繋ぎ、それぞれの抱える困りごとや現状の課題把握、また双方を繋げ、活動を広げる場として機能させる。

【関連する活動】

- ・ボランティア団体、日本語教育機関に対するサロンの周知活動
- ・日本語学習（自習）の場所提供や、日本語学習についての相談対応

② 郡山市や郡山市国際交流協会と日本語ボランティア団体、日本語教育機関などを繋ぎ、連携することで、協同関係を構築する。

→様々な団体が連携し、在住外国人支援を行うだけでなく、日本語学習支援者の新規開拓や育成を図る。

【関連する活動】

- ・ボランティア団体への積極的な訪問、イベント案内や課題の共有など
- ・日本語教育機関主催の地域イベントへの参画や周知
- ・日本語教育機関の自主企画への協力

③ 在住外国人と日本人とが一緒に学ぶ、ともに教え合う機会を提供し、新規・若手日本語学習支援者を開拓する。

→市内にあるボランティア団体だけでなく、郡山市国際交流協会で開催するイベント（多文化共生や日本語支援のイベント）を活用し、日本語学習支援に興味を持てるような仕組みを作り、定期的に実施することで新規・若手日本語学習支援者を呼び込み、また育成する。

【関連する活動】

- ・日本語アクティビティ for beginners の開催
- ・多文化ふれあい広場～やさしい日本語編～の開催

3 自身が考える日本語コーディネーターとして果たした役割

今回の活動を通して、人と人とを繋げるだけではなく、市や市協会とボランティア団体、日本語教育機関と繋がり、連携しながら地域日本語教育を実施することで、様々な属性を持つ在住外国人（生活者としての外国人）や日本語学習支援者に対して、多様な人々が様々な視点を持ち、関わり合いながら日本語学習支援及び学習支援者育成を実施することができた。

また、日本語学習支援者の開拓、育成についても、市協会で開催するイベントを活用し、様々な背景を持つ日本人が、日本語学習支援に興味を持てるような仕掛けを講師と共につくり、実施することで、実際に日本語学習支援について興味を持ってくださった方が現れ、5名の日本語学習支援者を開拓することができた。

その新規日本語学習支援者をすぐに養成講座、ボランティア団体へ参画させるのではなく、まずは「ともに学ぶ、一緒に話し合う」ことを目標としたイベントに参加してもらうことで、新規日本語学習支援者が離脱することなく、興味をもって参加し続けられる、継続性の高い関係性が構築できた。

これらのことが出来たのは、積極的に人や団体と繋がり、ニーズや悩み、それぞれの視点を聞き、実際の悩みや考えに寄り添うことが出来たからなのではないかと考える。

4 自身が大切にしたい視点と今後の展望

- ・様々な視点を持つこと
- ・それぞれの話を聞き、連携できる団体や機関等、相互に歩み寄れる先を見つけること
- ・連携先だけに任せるのではなく、自身も実際に考え、悩み、こちらで実施、企画できることを提案すること。
- ・その場だけの成果で判断するのではなく、その後の経過などを聞き取り、今後についても考え、共に振り返りを行いながら、協同しながら進めていくこと。

これらの視点を持ちながら、今後、実際に新規・若手日本語学習支援者を開拓し、連携しながら育成できるネットワークの構築に努めていきたいと考える。